人生を輝かせる山登りのススメ(第61回)

新しい生活様式を模索する山小屋

2020.06.19



緊急事態宣言が国内で全面解除され(2020年5月25日時点)、これから自宅近郊の山を中心に登山者の姿が徐々に戻ることが予想されます。しかし、依然厳しい状況にあるのが、登山にはなくてはならない存在の山小屋です。

「三密」の状態が避けられない山小屋の多くは、緊急事態宣言が解除された今も営業の休止を余儀なくされています。こうした山小屋の窮状を救おうと、登山愛好家たちによってクラウドファンディングを介した支援活動「山小屋エイド基金」が始まりました。5月28日現在、支援の分配先になっている対象の山小屋は60軒。今後も山小屋の参加が増えることが予想されていて、支援の呼びかけは8月13日まで続きます。

[山小屋エイド基金]
https://motion-gallery.net/projects/yamagoya-aid

そこで、これからの感染予防対策と現在の山の様子について、北アルプス穂高岳にある涸沢(からさわ)ヒュッテのご主人・山口孝さんにお話を伺いました。今回は山口さんのお話を中心に、これからの山小屋利用について考えたいと思います。

[涸沢ヒュッテ]
https://www.karasawa-hyutte.com/

話の最後には、クラウドファンディングのプロジェクト「山小屋エイド基金」を紹介しています。どうぞご一読ください。


涸沢ヒュッテの社長、山口孝さん

異例の小屋開け

穂高周辺の山小屋は、冬は営業を休止しています。そして昨年までは、毎年5月の連休前に営業を再開してきました。2020年4月、涸沢ヒュッテをはじめ周辺の山小屋では、緊急事態宣言を受けてゴールデンウイーク中の営業休止を決定。しかし、小屋開けの準備は予定通り進められていました。この時期に雪の中から建物を掘り起こし、換気をしたり、設備の手入れをしたりしないと、小屋が傷んで使えなくなってしまうからです。

「山小屋のスタッフ間で感染が広まったら大変なので、外でも全員、マスク着用で除雪などの作業をしていました。いつもは山のおいしい空気を吸えるのに、異様な光景でしたね。関東や関西の都市部に自宅があるスタッフは、移動の自粛によって小屋開けの作業に来ることができず、やむなく自宅待機をしてもらいました」と、山口さんは振り返ります。



例年のゴールデンウイークはこのように登山者でにぎわう涸沢

登山者ゼロのゴールデンウイーク… 続きを読む